

大阪府におけるがんの罹患と死亡、ならびにがん患者の生存率 全部位、胃、大腸、肝、肺、乳房、および子宮

味木 和喜子* 津熊 秀明 大島 明

大阪府がん登録では、がんの罹患と医療、およびがん患者の生存率に関して、毎年、最新の成績を年報として報告するとともに¹⁾、地域別集計を5年ごとに報告してきた²⁾。また、登録資料の充実と、より広い利用をはかるため、全資料を再整理、再集計し、データブックを刊行するとともに^{3), 4)}、がん統計白書などにも掲載してきた^{5), 6)}。

今回、表題の主要7部位について、罹患、死亡および生存率を最近年まで再整理し、図に示した。これらは、参考資料5)および6)の改訂版(本年発刊予定)に掲載される。

1. 対象と方法

(1) 対象

罹患、進行度および生存率の統計は、2003年2月に大阪府がん登録資料を再集計した成績である。死亡統計は、「大阪府における成人病統計」に基づく成績である。

罹患と死亡については、1966-98年のがん罹患者とがん死亡者を集計対象とした。大阪府がん登録事業発足当初の1963-65年では、対象年以前に診断された有病者を含む可能性が高いことから、今回の集計対象から除外した。また、最新年の1999年では、届出遅れの影響で罹患数を少なく見積もっている可能性のあることから、その前年の1998年までを対象とした。対象年を3年単位11期間に分け、推移を観察した。表1に、国際疾病分類(ICD)に基づく各部位の定義を示した。

生存率については、住民票照会に基づく予後調査を実施した1975年診断以降の大阪府内在住者(大阪市を除く)を対象とした。大阪市については、1993年罹患者から住民票照会への協力を得ている。今回は、推移の観察に重点をおくこととし、集計対象から除外した。厚生労働省「地域がん登録」研究班による生存率計測の標準方式に則り、(1)死亡情報のみで登録された患者、(2)上皮内がんおよび大腸の粘膜がん、(3)多重がんの場合の第2がん以降、を集計対象から除外した。罹患・死亡と同様に、対象年を3年単位7期間に分け、推移を観察した。

(2) 方法

罹患および死亡については、年齢調整率(1985年日本人モデル人口および世界人口を標準人口とする)年齢階級別率、年齢階級別割合、累積率、および数・調整率の変化率(1966-68年を100とする)を示した。

生存率では、生命保険数理法で計算した実測生存率を、日本人のコホート生存率を用いてEderer II法で計算した期待生存率で除した相対生存率を示した。年齢階級別(0-14歳、15-44歳、45-64歳、65-74歳、75歳以上)の分布と生存率を1975-77年と1993-95年で比較した。また、新発届出患者を対象に、進行度を限局、領域(所属リンパ節転移・隣接臓器浸潤)遠隔の3群に分類し、進行度分布と進行度別生存率の推移を示した。

集計対象と集計方法の詳細については、年

*大阪府立成人病センター 調査部

〒537-8511 大阪市東成区中道1-3-3

報ならびに既刊のデータブック 1)-4)を参照されたい。

2. 成績

表 2 に集計結果一覧を示した。表 1 に示した部位別の番号に、表 2 の枝番号を付して図番号とした。

参考文献

1. 大阪府健康福祉部、他：大阪府におけるがん登録第 65 報 1999 年のがんの罹患と医療及び 1995 年罹患者の 5 年相対生存率 . 大阪府健康福祉部 , 2002 .
2. 大阪府健康福祉部、他：大阪府におけるがん登録第 66 報 プロック別、地域別、市区町村別罹患、死亡、医療及び予後 1995-1999 年 全部位、胃、大腸、結腸、直腸、肝臓、肺、乳房及び子宮 . 大阪府健康福祉部 , 2003 .
3. 大阪成人病予防協会：大阪府における

がんの罹患と死亡 1963-1989 . 篠原出版 , 1993 .

4. 大阪成人病予防協会：大阪府におけるがん患者の生存率 1975-1989 年 . 篠原出版 , 1998 .
5. Ajiki W, Tsukuma H, Oshima A. Trends in cancer incidence and survival in Osaka. in Tominaga S et al (eds): Cancer Mortality and Morbidity Statistics Japan and the World - 1998. Japanese Cancer Association. Gann Monograph on Cancer Research No. 47 (1999) pp.145-151.

Tajima K. et al (eds): No. 51 Cancer Mortality and Morbidity Statistics Japan and the World-2004 (2004 年 3 月刊行)

6. 味木和喜子, 津熊秀明, 大島 明 . 大阪府におけるがん罹患と生存率の年次推移 . 富永祐民他編：がん統計白書 罹患 / 死亡 / 予後 1999 . 篠原出版 , 東京 , 1999 , pp.149-157.

表 1. 各部位の定義 (罹患および死亡)

図番号	部位	死亡				罹患 ICD-10*1
		ICD-7 - 1967 年	ICD-8 1968-78 年	ICD-9 1979-94 年	ICD-10 1995 年 -	
図 1	全部位	140-205	140-209	140-208	C00-C97	C00-C96*2
図 2	胃	151	151	151	C16	C16
図 3	大腸	153-154	153-154	153-154	C18-C21	C18-C21
図 4	肝	1550, 1558, 156	155, 197.8	155	C22	C22
図 5	肺	162, 163	162	162	C33-C34	C33-C34
図 6	乳房	170	174	174	C50	C50, D05*3
図 7	子宮	171-174	180-182	179-182	C53-C55	C53-C55, D06*4

*1 罹患データは、ICD-10 の導入時に、過去からのデータを全て ICD-10 に変換した

*2 子宮頸部および乳房の上皮内がんを除く *3 女性のみ、上皮内がんを含む

*4 上皮内がんを含む成績と除く成績との両者を示した

表 2. 集計結果一覧

枝番号	図の 内 容
1	年齢調整罹患率および死亡率, 性別, 1966-98 年 日本人モデル人口と世界人口
2	年齢階級別罹患率および死亡率, 性別, 1966-68 年と 1996-98 年
3	年齢階級別割合, 罹患および死亡, 性別, 1966-68 年と 1996-98 年
4	累積罹患率および死亡率, 性別, 1966-68 年と 1996-98 年
5	罹患数と死亡数 (1966-68 年を 100 とする), 性別, 1966-98 年
6	年齢調整罹患率と死亡率 (1966-68 年を 100 とする), 性別, 1966-98 年
S1	5 年相対生存率の推移, 性別, 1975-95 年
S2	相対生存率の推移, 男女計, 1975-77 年と 1993-95 年
S3	年齢分布, 男女計, 1975-77 年と 1993-95 年
S4	年齢階級別 5 年相対生存率, 男女計, 1975-77 年と 1993-95 年
S5	臨床進行度分布, 男女計, 1975-95 年
S6	臨床進行度別 5 年相対生存率, 男女計, 1975-95 年